

ペット同行避難の困難さ

ペットの飼い主にとって、災害時にペット同行避難(ペットを連れて避難)することは当然です。しかし、現実には簡単にいきません。

最も好ましい避難方法は、「ペットと同行避難」できる避難所に避難することです。

現在、避難所に指定されている場所は学校(体育館)ですが、通常複数の町内会、自治会の避難所になっており、全員が避難してきた場合、人間だけでも収容が困難です。

そのためもあり、ペット同行避難できない避難所が多いのが実際です。

ペットを連れての避難には、人間と同じかそれ以上に場所と物を必要とします。

ペットとは言え、風雨はしのげなければなりませんし、ケージやクレートに収容し、ペット同士の間はある程度離しておく必要があります。

恐怖心や寂しさから吠えるペットも出てきます。

水や食料だけでなく、高齢のペットなどには常備薬も必要になります。

糞尿の始末もしなければなりません。

またペットが苦手な人もいますので、人間の避難場所とは隔離する必要があります。

「ペット同行避難」最大の問題は避難場所です。

人の避難所である学校以外の避難場所を考える必要があります。

ペットを連れて避難できる専用の避難所確保がベストです。

ホームセンターや大規模スーパーマーケット、ショッピングセンターの駐車場、サッカーグラウンド、野球場テニスコートなどの運動場、企業所有の休眠地などの利用に協力を得なければ場所を確保できません。

ペット同行避難場所がない場合、現段階で考えられる対処方法は・・・

- ・一時的に避難するものの、再び帰宅しペットとともに自宅の比較的安全と思われる場所に留まる。
- ・ペットとともに車で避難し、自宅のガレージ、公園、広場等においてペットと車内にこもる。
- ・近くの公園・広場等に簡易テントを張り避難する。
- ・人は避難所に避難し、ペットは自宅の比較的安全な場所(トイレ、押入れ、ウォークインクローゼット等)や風雨をしのげる庇の下にケージやクレートを置き住ませ、餌や水の補給に通う。
- ・被害のない(少ない)親戚、親しい友人にペットを預かってもらい、自分は避難所に避難する。

少なくとも、救援の手(ペット同居施設、ペットの食料)が差し伸べられるまでの概ね5日間は自助・共助により何とか乗り切り、公助(国、自治体、ボランティア等)の救援を待つことになるでしょう。